



# 佳作

## 二人だけの電車旅

春木 心

その時、「心、二人だけの大ぼうけんだよ。」とお母さんに言われました。

私は夏休みの思い出をたくさん作るためにも、二人だけの大ぼうけんチャレンジしようと思いい、「行く！」と元気よく返事をしました。行くこと決めたら、ワクワクしてきて、なんだか楽しくなりました。

電車での旅は、楽しい事がたくさん起きるのかなと思えました。大ぼうけんに行く日が待ちどおしくなりました。

わたしの住んでいる折尾という町から、いとこが住んでいるおおむたという町まで、電車で二時間の旅です。

大ぼうけんに行くための用意も、お母さんといっしょにしました。電車の中で弟と食べようと思って、おかしをたくさんリュックの中に入れました。

出発する日の朝、わたしも弟もワクワクしていて、いつもよりも元気ではしゃいでいました。お母さんに何度も「しずかにしなさい。」とおこられました。

駅に着いて、まずキップを買いました。お母さんが

「電車に乗って、旅に行ってみない？」と夏休みのある日、お母さんに言われました。

そして、「お父さんもお母さんもついて行かないよ。心が連れて行くんだよ。」と言われました。お母さんは私に、今年一年生になった弟と二人だけで、電車に乗って遊びに行つてこないかと言ってきました。

私は今まで電車に乗った事がほとんどなかったし、一人でのつた事ありません。

乗り方も何も知らないのに、弟もいっしょに行かなくてはいけないのかと、とても不安になって、すぐにお母さんに返事ができませんでした。

買ってくれました。わたし一人だったらキップは買えなかったかとも思ったたら、ちよつと不安になりました。

楽しみにしていた大ぼうけんだったのに、なんだかへんな気持ちです。

駅のホームまでお父さんとお母さんがついてきてくれました。ホームにはたくさんの方がいました。キヨロキヨロとまわりを見回してしまいました。

わたしたちの乗る電車がホームに入ってきました。その時はワクワクとドキドキがいっぺんにきたみたいにくれしくて、ピョンピョンとびはねました。弟もとってもうれしそうでした。

お母さんが、「終点のおおむた駅まで、ぜったいにおいてはだめだよ。」と何度も言ってきました。わたしは「分かっているからだいじょうぶ。」と元気に答えました。

電車に乗りこみ、お父さんとお母さんに力いっぱい手をふってバイバイをしました。

ずっと楽しみにしていた大ぼうけんが、やっと始まり

ました。

一番後ろの席があいていたので、二人ですわりました。

お母さんといっしょに用意したおかしを食べようと思っていました。

車内のアナウンスが聞こえてきました。

その時に何度も、私がおられるおおむたという駅の名前を言っているのが、聞こえてきました。「終点のおおむたまではぜったいにおいてはだめだよ。」とお母さんに言われていたけど、アナウンスで「おおむた」と聞こえる度に、次の駅がおおむたなんじゃないかと思ひ、電車がとまる度にドキドキしました。

するとしゃしゅうさんが、「おおむた駅まで行くんでしよう、おるる時に声をかけてあげるからね。」と叫びました。

お父さんとお母さんがしゃしゅうさんに、私たちのおるる駅の事を話してくれていたんだと分かりました。わたしはやつと安心してすわれるようになりました。

やっと安心できたのに、今度は弟が「ねむたい。」と言ってきました。私は立って弟をねかせてやりました。

すわっていた時は分からなかったけど、立っていると電車のゆれがすごくて、足に力を入れて、手すりをしっかり持ってたおれないように立っていました。

しばらくしたら、弟が「トイレに行きたい。」と言ってきました。

私は本当にこまりました。電車にトイレがあるかも知らないし、わたし一人で弟をトイレにつれて行く事もできなと思ったからです。弟には「トイレはがまんしてね。」と言いきかせました。

私はどんどん不安になってさみしくなり、お父さんとお母さんに会いたくなりました。時計をみたら、まだ一時間しか電車に乗っていませんでした。

私はなきそうな気持ちでいっぱいでした。

はかたという大きな駅では、たくさんの人がおりて、たくさんの人が乗ってきました。

たくさんの人がおりましたので、わたしもついおりにく

りました。本当におおむた駅なんてあるのかなと思ひ、ますます不安になり、またなきたくなりました。

しゃしよさんの言葉をしんじて乗っていたら、くるめという駅で、いこのお姉さんが乗ってきてくれました。くるめまでむかえにきてくれたのです。

わたしは本当にうれしくて、気持ち之急に明るくなりました。電車に乗ってからずっと不安でなきそうだったからです。

わたしはやっと楽しみにしていたおかしを食べる事ができました。

やっとおおむたに着きました。本当にあるのかと思ひたくらい遠かったおおむた駅。

弟は電車をおりると、かけ足でトイレに行きました。わたしは電車の中でおもらしをしなくて本当によかったとすごく思いました。

初めての電車旅は、乗る前は楽しみでワクワクだったのに、乗ってからは全く楽しめませんでした。不安とドキドキで本当につかれてしまいました。

もう子どもだけで電車には乗りたくないと思いましたが。

次の日、おおむた駅までお父さんとお母さんと妹が車でむかえにきてくれました。

お父さんとお母さんと会えて、本当にうれしかったです。たった一日だけはなれていたけど、会えた時は本当にうれしくて、お父さんにだきつきました。

お父さんに「心はまたひとつお姉ちゃんになったね。」と何度もほめられました。

わたしはうれしくなり、もう電車には一人では乗らないと思っていましたが、またチャレンジしてみようかなと思えました。

今度は妹もつれて三人で大ぼうけんに行こうかと思っています。

その時はぜったいに大ぼうけんをもっと楽しむぞ！と決めています。